

スポーツによる脳震盪

前田 朗(まえだ あきら)

成田整形外科病院

脳震盪は、ラグビー、アメリカンフットボール、格闘技、アイスホッケーなどで発生しやすいスポーツ傷害である。近年、スポーツによる脳震盪は、競技団体関係者や選手とその家族の間での大きな関心事となっている。例えば、ヨーロッパ発の動きとして、IOC (国際オリンピック委員会)、FIFA (国際サッカー連盟)、IRB (国際ラグビー評議会)、IIHF (国際アイスホッケー連盟)、FEI (国際馬術連盟) の5団体が合同会議を行い (Concussion in Sports Group)、スポーツ脳震盪に関するコンセンサス形成を行っている。また、アメリカではNFLの選手が引退後さまざまな頭部外傷後遺症に悩まされていることや青少年の頭部外傷後遺症が社会問題化し、脳震盪の予防教育を義務づける法律 (ライステッド法、2006年ワシントン州が最初) が、現在47州で制定されている。

以上のような流れを受け、スポーツ競技団体ごとに様々なルール改正や注意喚起・教育がなされつつある。従って、スポーツ医療やスポーツ現場に携わる医療関係者は、脳震盪についての世界と日本の現状や基礎知識を把握しておく必要がある。

本講演では、日本ラグビーフットボール協会の安全対策委員を務める演者が、スポーツによる脳震盪を取り巻く現状と基礎知識について解説する。

講演内容

- * 脳震盪とは？
- * スポーツによる脳震盪を取り巻く、国内外の現状
- * 脳震盪発生のメカニズム
- * なぜ脳震盪を重視するのか？
- * なぜ脳震盪後に安静が必要なのか？
- * スポーツ現場における脳震盪の判断の方法
- * 脳震盪発生からスポーツ復帰までの道筋
- * 脳震盪予防の取り組み